旧岩崎邸庭園　配置図

文化財庭園へご来園の皆様へ

都立庭園は、江戸、明治、大正時代から続く歴史・文化・自然を兼ね備えており、いずれも国や都の文化財に指定されています。

震災や戦災、進む都市化の中で残された貴重な存在であり、この貴重な存在がよりよい状態で後世に残るよう、皆様にご理解とご協力をお願いいたします。

【庭園からのお願い】

○ペット（動物）を連れてのご入園、園内の動植物の採集、敷物の利用、酒類の持込みはご遠慮ください。
○建具、壁紙、柱などにはお手を触れないでください。
○写真撮影、写生は建物・添景物保護のためにお断りする場所があります。
○文化財は不定期による保存修理工事を要することがあり、一部ご観賞いただけない部分があります。
○園内全面禁煙です。喫煙所はありません。

都立文化財9庭園

浜離宮恩賜庭園
旧芝離宮恩賜庭園
小石川後楽園
六義園
旧岩崎邸庭園
向島百花園
清澄庭園
旧古河庭園
殿ヶ谷戸庭園

重要文化財

旧岩崎邸庭園

■開園年月日
平成13（2001）年10月1日
■開園面積
20,708.07㎡
■開園時間
午前9時～午後5時
（入園は午後4時30分まで）
※イベント開催期間などで時間延長が行われる場合もあります。
■休園日
年末年始（12／29～1／1）
■無料公開日
みどりの日（5月4日）
都民の日（10月1日）
■庭園ガイド（無料）
午前11時と午後2時

【お問合せ先】
旧岩崎邸庭園サービスセンター
☎03-3823-8340
〒110-0008
東京都台東区池之端1-3-45

スタンプ欄

入園料		個人	団体（20名以上）	年間パスポート（旧岩崎邸庭園）	年間パスポート（9庭園共通）
	一般	400円	320円	1,600円	4,000円
	65歳以上	200円	160円	800円	2,000円
	無料	小学生以下（要付添）及び中学生（都内在住もしくは在学） 身体障害者手帳、愛の手帳、精神障害者保健福祉手帳 または療育手帳持参の方と付添の方			

【交通のご案内】
《電車》◎東京メトロ千代田線「湯島」下車1番出口より徒歩3分
◎東京メトロ銀座線「上野広小路」下車徒歩10分
◎都営大江戸線「上野御徒町」下車徒歩10分
◎JR山手線・京浜東北線「御徒町」下車徒歩15分　※駐車場はありません。

公園へ行こう!　検索

東京都公園協会全般に関する問い合わせ先
東京都公園協会本社　TEL:03-3232-3011
※8:30～17:30（土日・祝日、年末年始を除く）
https://www.tokyo-park.or.jp

発行：文化財庭園課 TEL.03-3232-3018
23.10

重要文化財

旧岩崎邸庭園

きゅう いわ さき てい てい えん

Kyu-Iwasaki-tei Gardens

時の風が吹く庭園

指定管理者　公益財団法人　東京都公園協会

明治29年、新しい日本の建築文化が始まった。

旧岩崎邸庭園は明治29(1896)年に岩崎彌太郎の長男で三菱第三代社長の久彌の本邸として造られました。往時は約1万5,000坪の敷地に、20棟もの建物が並んでいました。現在は3分の1の敷地となり、現存するのは洋館・撞球室・和館大広間の3棟です。

戦後GHQに接収され、返還後、昭和28(1953)年に国有財産となり、最高裁判所司法研修所等として使用されました。昭和36年(1961年)に洋館と撞球室が「旧岩崎家住宅」(文化財名称)として、国の重要文化財に指定。昭和44(1969)年に和館大広間と洋館東脇にある袖塀が、平成11(1999)年に煉瓦塀を含めた敷地全体と実測図がそれぞれ追加指定されました。

2階客室の金唐革紙。

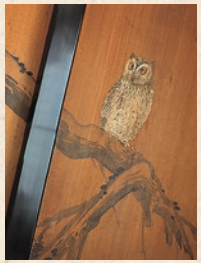
庭園(ていえん)

江戸期に越後高田藩榊原氏、及び明治初期は舞鶴藩牧野氏の屋敷でした。往時の庭は、大名庭園の形式を一部踏襲していました。建築様式同様に和洋併置式とされ、「芝庭」をもつ近代庭園の初期の形を残しています。往時をしのぶ庭の様子は、江戸時代の石碑、和館前の手水鉢や庭石、モッコクの大木などに見ることができます。この和洋併置式の邸宅形式は、その後の日本の邸宅建築に大きな影響を与えています。

和館(わかん)

洋館に併置された和館は、書院造りを基調にしています。完成当時は建坪550坪に及び、洋館を遥かにしのぐ規模を誇っていました。現在は、冠婚葬祭などに使われた大広間の1棟だけが残っています。施工は大工棟梁として、政財界の大立者たちの屋敷を数多く手がけた大河喜十郎と伝えられています。

床の間や襖には、橋本雅邦が下絵を描いたと伝えられる障壁画が残っています。今は失われた岩崎家の居住空間は、南北に分けられ、南に久彌と寧子夫人の部屋、子ども部屋などが置かれていました。北には使用人部屋、台所、事務方詰所、倉庫などがありました。



現在も当時の板絵が残る。

部材のひとつひとつに、現在では入手困難な木材が使われている。

洋館(ようかん)

ジョサイア・コンドルの設計により、明治29(1896)年に完成しました。17世紀の英国ジャコビアン様式の見事な装飾が随所に見られ、イギリス・ルネサンス様式やイスラム風のモティーフなどが採り入れられています。洋館南側は列柱の並ぶベランダで、1階列柱はトスカナ式、2階列柱はイオニア式の特徴を持っています。また、1階のベランダには、英国ミントン社製のタイルが目地無く敷き詰められ、2階には貴重な金唐革紙の壁紙が貼られた客室もあります。岩崎久彌の留学先である米国ペンシルヴァニアのカントリーハウスのイメージも採り入れられました。併置された和館との巧みなバランスは、世界の住宅史においても希有の建築とされています。

往時は、主に年1回の岩崎家の集まりや外国人、賓客を招いてのパーティーなどプライベートな迎賓館として使用されました。

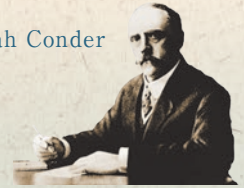
邸内細部にジャコビアン様式の意匠を見ることができる。

撞球室(どうきゅうしつ)

コンドル設計の撞球室(ビリヤード場)は、洋館から少し離れた位置に別棟として建っています。ジャコビアン様式の洋館とは異なり、当時の日本では非常に珍しいスイスの山小屋風の造りとなっています。全体は木造建築で、校倉造り風の壁、刻みの入った柱、軒を深く差し出した大屋根など、アメリカの木造ゴシックの流れを汲むデザインです。洋館から地下通路でつながっていて、内部には貴重な金唐革紙の壁紙が貼られています。

1階婦人客室天井はシルクの日本刺繍の布張りになっている。

ジョサイア・コンドル Josiah Conder



1852年、英国ロンドン生まれ。明治10(1877)年、日本政府の招聘により来日。工部大学校造家学科(現・東京大学工学部建築学科)の初代教師に就任し、日本で初めて本格的な西欧式建築教育を行いました。門下には、東京駅の設計で知られる辰野金吾、赤坂離宮を設計した片山東熊など、近代日本を代表する建築家がいます。鹿鳴館・上野博物館・ニコライ堂など多くの洋風建築も設計し、のちに日本最初の建築設計事務所を開設しました。東京帝国大学名誉教授、(日本)建築学会名誉会長・名誉会員でもありました。大正9(1920)年、日本で永眠。

建築家・コンドルは、河鍋暁斎に師事して日本画を学び、日本人を妻とするなど、終生日本を愛しました。